

【実践報告】

学校栄養教育実習Ⅱの報告

広島文教女子大学人間科学部

人間栄養学科 准教授 藤 井 紘 子

1 はじめに

栄養教諭一種免許状の取得を希望する教職課程履修学生を対象とした教育実習は、授業科目「学校栄養教育実習Ⅱ」に含まれる。本実習は栄養教諭としての修得すべき知識・技術に関する内容が中心となる小学校等での教育の現場で行うものであり、その目的は、栄養教諭としての使命感を自覚し、職務内容について理解を深め、教育に関する資質と栄養に関する専門性を育成することである。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学習 (学内)	4月～5月	<ul style="list-style-type: none">・本実習の意義、目的、心構え等を再確認する。・実習校への事前訪問により、指導教諭等の指導担当者から、担当となる学級の児童・生徒の実態や、食に関する指導の全体計画、実習の事前課題を確認する。・実習校より出された課題について、模擬授業や給食指導、展示物の作成等を行う。作成物についてお互いに評価し合い、よりよい授業・教材になるよう工夫を重ねる。
本実習 5日間 (学外)	6月	<ul style="list-style-type: none">・実習の内容は実習校により計画される。主な内容として、①指導教諭等からの学校・学級経営の説明、②児童及び生徒への個別な相談、指導の実習、③児童及び生徒への教科・特別活動における指導の実習、④食に関する指導の連携・調整の実習が挙げられる。・実習中は教育実習日誌等の記録をつけ、栄養教諭の役割・業務等について理解を深める。
事後学習 (学内)	6月～7月 9月 報告会は 9/28に実施	<ul style="list-style-type: none">・各自の実習を振り返り、記録をまとめる。・各自の実習内容についての報告会を実施する。報告会では、与えられた課題の取り組みを通して学んだことや研究授業の紹介等について発表する。

3 活動の概要

(1) 研究授業の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

テーマ	対象	ねらい	備考
野菜パワーを知ろう	2年生	野菜の働きについて理解し、野菜を食べようとする意欲を高める。	学級活動

海そうについて知ろう	3年生	海藻の種類や含まれる栄養素の働きについて理解し、海藻を食べようとする意欲を高める。	学級活動
地場産物の良さを知ろう	5年生	地場産物の良さを知り、地場産物をすすんで食べようとする意欲を高める。	学級活動 (給食指導)
牛乳の働きを知ろう	全学年	牛乳に含まれる栄養素の働きを理解し、牛乳を飲む意欲を高める。	学級活動 (給食指導)
きゅうりについて	3年生	野菜に興味を持ち、野菜を積極的に食べるようになる。	学級活動 (給食指導)

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

- ・各学級に応じた授業を行うためには、児童の実態を十分に把握しておくことが重要であることを改めて学んだ。また、児童の理解度には個人差が生じるため、机間指導における個別対応の重要性を実感した。
- ・具体的で充実した授業を行うためには、児童と積極的にコミュニケーションをとり、給食時間の様子を始め、普段の様子をしっかりと観察することが大切であることを学んだ。
- ・授業のねらいの達成度の評価方法を事前に明確に設定しておくことの必要性を学んだ。
- ・授業中に児童の集中力を維持させるためには、児童の興味をひくような仕掛けや工夫をした教材を用いることが必要であることを学んだ。
- ・国語や生活科など他の教科と関連させた食に関する指導について、具体的に学ぶことができた。
- ・「見る・聞く・書く」だけの授業ではなく、児童が自分で「調べる」学びを取り入れることで児童の理解が深まることを学んだ。
- ・授業の時間配分を考える際は、児童が考えたり、発表したりする時間を十分確保する必要があることを学んだ。学年ごとの特徴を十分に把握することがとても重要であると感じた。

4 成果と課題

効果的な教育を行うためには事前の実態把握が必要であることを学内での授業において知識としては修得していたが、現場の実習でこのことを実感した旨を実習後の感想に挙げる学生が多くみられた。このことから、学内の授業では伝えきれない部分が大きいと感じると同時に現場での実習で学生が修得してくるもの大きさを感じた。

実習生の多くは、報告会の配布資料における後輩への伝達事項として「教師として、児童の手本となるような言葉遣いや行動を意識する」ことを挙げていた。報告会を、実習に必要な知識・技術のみならず、社会人としてのマナー等も含めて、学生同士が高め合う機会として位置づけていくことが重要である。